

平成 30 年 9 月 25 日

教 育 長 答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問）児童生徒に対する一次救命講習の実施について

本県においても一人でも多くの命を救うことのできる広島県の実現に向けて、児童生徒に対する定期的な一次救命講習の実施を進めて欲しいと考えるが、教育長の所見を伺う。

（答）

心肺停止に陥った人への救命措置は生存率に大きな影響があることから、児童生徒が心肺蘇生などの救命措置の方法を身に付けておくことは重要であると認識しており、AEDを使用した実習を在籍時に少なくとも一度は実施するよう指導しているところでございます。

中・高等学校においては、保健体育科などの授業や運動部に所属する生徒に対して夏季休業前に実習を行うなど、様々な機会を捉え、心肺蘇生法の実習を実施しているところであり、生徒によっては複数回の実習を受けている者もありますが、全ての児童生徒に対して定期的に実習を行うこととする場合には、講師や実習器材の確保が必要でございます。

このため、教育委員会といたしましては、今後、より多くの実習の機会を確保するため、教職員が講師を務められるよう、保健主事研修等において、指導力の向上を図るとともに、簡易版の実習器材を順次配付するなどして、児童生徒の実習の機会が十分確保されるよう取組をより一層進めてまいります。